

冬の大三角・北部九州超低山巡りの旅

はじめに

福岡で活動する社会人落語（アマチュア落語）の仲間のイベント（三日間で四つの落語会）を応援かたがた鑑賞させていただこうという趣で福岡旅行が決まった。どうせ福岡まで行くのなら、ついでに色々楽しんで来ようと思い「北部九州の超低山歩き」も考えて見た。

各都道府県で一番低い山を歩きはじめてから何年になるだろうか、関東地方はすべて歩いたので次は中部地方へと手を広げ始めたところである。九州各県へは距離的な問題もあり気軽に出かける訳にもいかないので、何かの機会に抱き合わせで行こうと思って、密かに情報面での準備だけは進めて来た。

各県の七つの山に関する情報を調べてまとめて見たが、福岡から手軽に行くことができるのは福岡県と佐賀県ぐらいで、無理したところで大分県あたりまでが限界だろうと考え、まずは旅立ってから状況を見ながら判断することにした。

三日間の落語会ラッシュが終って平成 27 年 12 月 14 日、福岡県下は久しぶりに朝から快晴で好機到来。

<その1> 福岡県で一番低い山 「小岳」

朝食を済ませてひと休みのあとホテルを 8 時 10 分に出発。ホテルから至近距離にあるニッポンレンタカー住吉営業所に飛び込んでホンダ N-Box を借りて 8 時 23 分に出発。（12 時間 7,128 円）

朝のラッシュの時間が始まり通行量の多い博多の町中は他所者には恐い。ジグザグにルートをとって海辺に近付いて行くと徐々に朝のラッシュから解放されるようになってきた。香椎へ出て海の中道への道に入るともう車の通行量は少ない。左手に博多の町と背後の山なみを望むようになると海の中道海浜公園。公園の一番奥にある JR 香椎線の西戸崎（さいとぎき）駅に 9 時 23 分に到着。駅のトイレで用をたしながら終着駅の撮影を楽しんでいる内に折り返しの電車が入ってきた。

カーナビゲーションの目的地を志賀中学校に設定して注意深く走っていくと、住宅街の先にショートコースのゴルフ場と中学校が現れた。ゴルフ場の駐車場に車を止めて、9 時 30 分地図を片手に歩行開始。

中学校とゴルフ場間の道を注意深く進んで行くとすぐに松林が始まり、中学校の正門前に「小嶽神社」と書いた赤い鳥居を発見。小さな神殿の前で道はなくなっているの、強引に斜面を上りつめたらすぐに稜線に飛び出した。

9 時 45 分、最も高いピークに到着したが何の表示も標識もない。どう考えてもここが海拔 21m の小岳の頂上に違いない。何枚か写真を撮った後南側の斜面を下り、中学校とゴルフ場間の道に下山。

地図を見ると、この道は海岸に出られそうなので行ってみることにした。穏やかな日差しに揺れる海面と能古島（のこのしま）をしばし眺めた後駐車場に戻った。駐車場で飲み物を飲みなが



ら次の行程を検討。大分へ行くか、佐賀へ行くか、それとも両方行くか、両方行くならどちらへ先に行く方

九重（くじゅう）の山々を遠望し、由布岳（ゆふだけ）が間近に迫ってくるようになり大分が近くなってきたことを実感。

日出 JCT まで来ると眼下に別府湾が広がってきた。海を見下ろす別府湾 SA でトイレタイム。ついでにカメラを持って「海と山の素晴らしい景観」のサービスエリアを楽しんだ。

別府湾 SA を出ると道は海岸線に向かってひたすら下り続けて、大分光吉 IC に 15 時 17 分着。何とか時間的には大丈夫そうな感じになってきた。国道 210 号線へ出て大分川に沿って下郡バイパスに入ればもうあと僅か。バイパスを離れて路地に入るとカーナビゲーションを「豊肥線の滝尾駅」にセットして慎重に進み、駅付近で「碓山公園」に再設定。碓山公園は住宅地を走る細い道の果てにあった。15 時 30 分に到着。

日没が迫る中で効率よく事を運ぶ必要があり、気が焦る。

紅葉した木の葉が散るジグザグに走る道を小走りで登っていくと熊野神社という立派な神社が姿を見せた。その僅か上に平坦で広い山頂が広がっており、赤い標識が「碓山 56m」と示している。三脚にカメラをセットしてシャッターチャンスを待つ人が二人いるだけの静かな頂上は、海拔 56m では勿体ないような素晴らしい景色。由布岳・鶴見岳を中心に特徴的な形の山々が左側に、国東半島と別府湾が右側に広がる大パノラマ。

碓山は約 9 万年前の阿蘇山の噴火による火砕流のなれの果てだと言われている。当初は海の中にあり、神武天皇が東征のおりに碓を下したという伝説もあり、「碓島」と言ったらしい。現在でも資料を紐解くと碓島と書かれているし、公園の中に立つ説明の看板にも「おおいたの遺産 碓島」と書いてあった。

時計を見ると 15 時 45 分、何とか 16 時前に登頂することができた。見応えのある景色を何枚もカメラに収



めながらカメラを構えている地元の人と立ち話。どうやら夕暮れ時のシャッターチャンスを待っているようだった。この景色は日没の瞬間を見たくなるような景色ではあるが、時刻が気になる。

参道を戻って車の中から、碓山の東側の明野高尾に住む U さんに電話で報告した後で 16 時に神社を出発。往路を引き返して大分光吉 IC から大分自動車道に入ると今度は連続した登り勾配の連続。日出 JCT あたりからは日没に向かって走るようになるのでまぶしさと暑さで頭が霞んでくる。往路同様に、由布岳を皮切りに九重北端の山そして内陸の幾重にも重なる山なみ楽しみながら日没を追いかけて走る。それは「時との戦い」という言葉がぴったりするようで、やがて太陽が山の端に隠れると同時に闇と冷気が襲いかかってきた。鳥栖 JCT まで来るともう完全に暗闇で景色など楽しむべくもなく、行きかう車のヘッドライトを見送るだけになってしまった。夕方のラッシュ時間帯にかかってしまって都市高速道路はやや混雑気味だったが、ガソリンを満タン給油した後住吉のニッポンレンタカーに 18 時 40 分に帰着することができた。

メーターを見たら走行距離は 450Km だった。今となれば、碓山の頂上でもう少しゆっくりすればよかったなと思もするが・・・、まずは 1 日で三県クリヤしたことを祝うのが先決。昨日見つけた東住吉通りの「かき川」に入って黒霧島のお湯割りで祝杯をあげた後、鯖の塩焼きでご飯。

おわりに

高速道路の整備が進んだことで三県の山を一日で梯子することができた。

福岡に住んでいた 35 年前には高速道路は福岡から熊本の松橋までしか通っていなかったもので、こんな芸当はできなかった。それでも宮崎県・熊本県県境南部の山まで出向いたものだった。35 年の時の流れと科学技術の発展に感謝すべき旅だったとも言える。

小岳・櫻ヶ岡・碓山、この三つの点を結ぶと大きな三角形を描くことができる。そんなことからこの旅に「冬の大三角」という副題をつけて見た。

さて九州各県で一番低い山、残り半分はどうでしょうか？これを考えることだけでまた楽しくなる。

以上

<付録> 各県で最も低い山・九州篇・・・参考文献 「日本山名事典」三省堂

県名	山名 (よみ)	高さ (海拔m)	場所	備考
福岡	小岳 (こだけ)	21m	海の中道	
佐賀	櫻ヶ岡 (さくらがおか)	41m	小城市小城公園	
大分	碓山 (いかりやま)	56m	大分市豊肥線滝尾駅前	標高点なし
大分	濃霞山 (のうかやま)	60m	佐伯市佐伯港	標高点あり
長崎	細ヶ岳 (ほそがたけ)	25m	五島列島黄島西端	
熊本	白島 (しらと)	19m	八代港 (球磨川河口)	
宮崎	虚空蔵山 (こくぞうやま)	49m	日南線南郷駅北東 目井津漁港	
鹿児島	宮城山 (みやぐすくやま)	58.4m	奄美諸島徳之島	三角点あり